

俳句通信

特別作品25句 下鉢清子「み冬尽く」

特集〈兜太逝く〉

金子兜太自選49句

①兜太の人と、その作品について

宇多喜代子 「永遠の存在者」

池田澄子 「弟子ではないけれど」

酒井弘司 「兜太俳句断章——思い出すことなど」

岸本尚毅 「わが愛誦の兜太作品——モノ派とコトバ派」

神田ひろみ 「今日より「古典」——楸邨と」

筑紫磐井 「兜太・百年のマグマ」

坪内稔典 「『今日の俳句』のころ」

林 桂 「追悼・金子兜太をどう読んできたか——つれづれに」

柳生正名 「兜太、ヒューモアとしての」

西池冬扇 「鳥になった兜太——金子兜太の遺したモノコト」

②金子兜太の1句

青山 丈・伊丹三樹彦・稲畑廣太郎・井上康明・茨木和生・今井 聖・上田日差し・

尾池和夫・大牧 広・奥坂まや・小田切輝雄・鍵和田柚子・角谷昌子・鎌田 俊・菅野孝夫・

九鬼あきゑ・小島 健・塩野谷 仁・鈴木貞雄・鈴木しげを・鈴木太郎・関 悦史・

染谷秀雄・高橋将夫・高柳克弘・瀧澤和治・田島和生・田中重美・出口善子・寺井谷子・

土肥あき子・中岡毅雄・中原道夫・行方克巳・船越叔子・秦 夕美・波戸岡 旭・広渡敬雄・

藤本美和子・中村和弘・星野高士・星野恒彦・坊城俊樹・松岡隆子・松尾隆信・横澤放川・

源 鬼彦・向田貴子・望月 周・山尾玉藻・山田貴世・山本洋子・矢野景一・水野真由美

●作品● 対中いずみ・名取里美・下坂速穂・西嶋あさ子・松尾隆信・橋本榮治・能村研三・奥坂まや・
磯 直道・和田順子・すずき巴里・飯田 晴・廣瀬町子 ほか

鬼太逝く



——2016年、96歳の鬼太

写真／樋口一成

兎太逝く

山峡に
沢解虫の華
微かなり

兎太



特別作品25句

み冬尽く

下鉢清子

試薬疲れ鬼やらふ声遠くより
二丁艫の軋み春立つ日なりけり
節代る点眼薬の代りたる
み冬尽く海猫の声より明くる浜
何かゐる一番東風の潮溜り
春は名のみ横書きなりし見舞文

特集 兜太逝く



生没年(1919年9月23日-2018年2月20日)

金子兜太氏が、2月20日、急性呼吸促進症候群で亡くなりました。98歳。
そこでウェブ編集室では、緊急特集を組むこととし、

①兜太氏の人間、その人と俳句、その俳句作品をどう読んだか——
などについて10人の俳人にお書きいただき、

②兜太俳句の気になる1句、好きな1句について

54人の俳人に思うところを簡単に述べていただきました。



前列右から 宇都宮敦子、須原和男、山田閨子
後列右から 藤田直子、星野高士、藤本美和子

ゲスト
宇都宮敦子・須原和男
藤田直子・山田閨子

ホスト
星野高士・藤本美和子

編集部 超結社句会第44回目です。ゲストは「鴨・貂」同人の宇都宮敦子さん、「貂」同人の須原和男さん、「秋麗」主宰の藤田直子さん、「花鳥米・ホトトギス」同人の山田閨子さん、ホストは「玉藻」主宰の星野高士さん、「泉」主宰の藤本美和子さんです。遠慮のない意見交換をお願いします。

高士 では、高点句から始めたいと思います。

黙禱をほどくや春の怒濤音

◎和◎美◎

和男 昨日が3月11日。東日本大震災から7年目です。たんなる作品というよりは社会的、歴史的背景をもった作品だと思います。「怒濤音」で大津波を偲ばせる働きがあるわけですね。

敦子 東日本大震災のことを言っているんだとすぐ分かります。「黙禱」の真剣さを強調していて、いい句だと思います。美和子 時期としてもよく合っているということと、「黙禱」という言葉は堅いんですが、「怒濤音」という強い調子の言葉を並べることで、「黙禱」の深さが出ていると思いました。それと、句またがりの表現によって作者の複雑な心境みたい